

発言内容

1. 主催者あいさつ

(1) 小野寺浩 / 環境省自然環境局長 (代読: 黒田大三郎 / 環境省自然環境局自然環境計画課長)

環境省自然環境計画課長の黒田大三郎でございます。今日は阿蘇の草原再生シンポジウムにご出席いただきまして誠にありがとうございます。環境省は日本各地で自然再生事業に取り組んでおります。中でも阿蘇の草原再生には非常に力を入れてきたと思っております。

本日は参加を予定しておりながら、急遽伺えなくなった小野寺浩局長のメッセージを代読させていただきます。

「自然環境局長の小野寺浩です。私は平成7年から九州地区自然保護事務局長として阿蘇に勤務し、地元の方々やボランティアの皆様と一緒に野焼きを行うなど、阿蘇の草原問題に取り組みました。本日のシンポジウムに出席することを楽しみにしていましたが、あいにくと別の公務が急に生じ、出席できなくなりとても残念です。

さて、阿蘇くじゅう国立公園は昭和9年12月に阿蘇国立公園として誕生し、70周年を迎えました。明治・大正時代には夏目漱石や与謝野鉄幹など多くの文人が阿蘇を訪れ、その魅力を全国に広めていきましたが、阿蘇郡内牧村小里(現阿蘇市)出身の松村辰喜を中心として組織された大阿蘇国立公園指定会や県民あげての運動の結果、国立公園に指定されました。

当時、国立公園委員会の委員長として阿蘇を国立公園に指定することを適当と答申したのは初代の国立公園協会会長としてわが国の国立公園制度の発足に尽力された熊本のお殿様細川護立公というご縁もあります。

この阿蘇の魅力は、世界最大級のカルデラとその中心に位置する阿蘇五岳。そしてその山麓や外輪山や裾野に広がる日本最大の草原。千年の草原とも言われる阿蘇の草原は古くから地域の人々の生活を支え、文化を育んできましたが、それは野焼き・放牧・採草といった活動が継続されることで維持されてきた二次的自然です。

平成14年3月に策定された新生物多様性国家戦略では、人の手により維持されてきた草原や里山等二次的自然が、生物多様性の高い地域と評価されながら、地域の方々の生産活動や生活と疎遠になり、管理が行き届かなくなったために危機に直面していると記しました。同時にこの国家戦略では、保全の強化・持続可能な利用に加えて自然再生を重要な課題として位置づけました。現在阿蘇の草原は、管理する担い手の減少が進み、地域特有の素晴

らしい草原環境が失われようとしています。これに対し地元の方々やNPO・行政等により草原の保全再生の取り組みが進められ、環境省も自然再生事業の一環として阿蘇草原再生の取り組みを進めているところです。

本日のシンポジウムは国立公園指定70周年を期に皆様と共に阿蘇の草原の価値をあらためて見つめ直し草原再生に取り組むことの意味を阿蘇から全国へ発信することを目的としています。このシンポジウムが素晴らしい阿蘇の草原環境を未来の子供達に引き継ぐきっかけとなることを、そして全国の二次的自然の保全再生の良きモデルになることを心から期待します。平成17年2月12日 環境省自然環境局長 小野寺浩」

以上でございます。どうもありがとうございます。

2. 来賓あいさつ

(1) 松岡利勝 / 衆議院議員

私は、地元阿蘇の衆議院議員松岡利勝でございます。私も環境の問題については自由民主党の環境部会長を今から約10年以上近く前に仰せつかり、さらに農林部会長をしている関係で、こういう自然の問題に取り組んでいるところでございます。皆様も環境に非常に関心が高いと思いますが、地球の温暖化で温度が1度上がりますと穀物の生産が1割減ります。この温暖化をどうやって防ぐか、これは地球環境問題最大の課題でございます。対策は、二つあります。1つはCO2を減らすエネルギーにしていく。石油エネルギーからみどりのエネルギー革命を目指して議員連盟を作って取り組んでおります。

もう一つはみどりを増やしたり、守って、みどりによってCO2を吸収することをしっかりと行なうことでございます。

この地元のみどり、阿蘇の草原であります。これは野焼きによって守られてきました。私も2回野焼きに参加したことがあります。阿蘇では畜産・放牧をやるために野焼きをするわけで、これがだんだん廃れてきております。最近はおか牛の減少と共に野焼きをする人達(牧野組合)も減ってきました。そこで私どもは畜産振興の立場からも、この問題にしっかり取り組んで、おか牛の振興対策もやり、放牧を維持して、野焼きを守っていくことを基本にして色々活動しているわけです。一番大変な作業になる輪地切り。この問題にも私どもは10年来取り組んで来て、やっと現状の輪地切りに助成制度を設けることができました。これからも機械化を進めたりしながら、なんとか輪地切り、野焼きという重労働の大変な作業の問題を、解決していきたいと思っております。

す。世界の阿蘇の草原は、まさに畜産によって守られてきました。我々もこの素晴らしい阿蘇の草原が守られていくよう、政策的な面でやるべきことを成し遂げていきたいと思っております。野焼きには、保水力を高め、雨が降っても土壌が流れなくなるという大変大事な作用があります。どうぞ今後ともご指導ご鞭撻を心からお願い致しまして一言政治的な立場から、また関係者としての立場から、ご挨拶をさせていただきます。

(2) 金澤和夫 / 熊本県副知事

熊本県の副知事の金澤和夫でございます。熊本県は本日のシンポジウムの共催という立場ですので一言ご挨拶をさせていただきますと思います。本日のシンポジウムでは、皆様方をお迎えして意見交換ができることを、心からお喜び申し上げます。私は、阿蘇を訪れる度に中岳の火口と、そこから立ち上る噴煙や釈迦の涅槃像といわれる阿蘇五岳の眺め、さらには湯煙上る温泉、山や谷を緑のじゅうたんのごとく敷き詰めている草原等、色々な景観に接して、強い印象を受けてきたところでございます。

阿蘇は見る場所・角度・人、それから見る季節なり時間によって、様々な顔を見せてくれるものだというのが私の印象です。特に延々と続く草原の中で放牧の牛がゆっくりと草をはむ、そういった光景はなんとも雄大で、日頃の都市で暮らす世界とは全く違った空間に浸ることができる、そうした印象をもっています。

しかしながら、今も色々なご紹介がございましたように人々の営みの中で形作られ維持されてきた草原が、畜産業の低迷、あるいは地域の生活様式の変化などによって荒廃しつつあります。阿蘇の草原は畜産業の採草地・観光資源・環境保全等々、色々な面で県民にとってなくてはならない貴重な財産であろうかと存じます。この草原をどのように守り、また後世に伝えていくのか、阿蘇に住まわれる方々、畜産業に携わられる方はもちろんでありますけれども、それだけではなくて県民全てがこうした問題を大きな課題として認識をして取り組んでいかなければならないのではないかと考えております。

本日のシンポジウムで草原再生に向けた真剣なご意見が幅広い角度から交わされることを心からご期待申し上げますと共に、草原再生によせる皆様の心が多くの賛同者を呼んで、草原環境保全再生への取り組みとしっかりと結びついていくことを心から念願する次第でございます。

(3) 坂本哲志 / 衆議院議員 (メッセージ司会代読)

「阿蘇草原シンポジウムの開催を心よりお喜び申し上げます。都合により出席できず残念ですが本シンポジウムの趣旨でもある草原再生の意義が地域を始め全国に波及し、また全国的な取り組みになるよう心よりお祈り申し上げます。」